

地震災害時における 精神科訪問看護師の役割とは

第40回札幌市病院学会
令和2年2月1日

五稜会病院 訪問看護室 地域生活支援室

○庄司典子 黒川晴美 川合由美子
本村朋未 穴戸有里子 三浦一恵
鈴木大輔

私は本演題に関連して、開示すべき利益相反はありません。

当院の概要

- 北区篠路に位置する精神科単科の病院 193床
急性期病棟 ・ ストレスケア思春期病棟
療養病棟(開放・閉鎖)
デイケアセンター ・ リワークヴィレッジ
グループホーム 5か所 共同住居 2か所
- 訪問看護室
当院に通院している方への訪問看護を実施
職員配置:常勤看護師2名
非常勤看護師3名
1日平均勤務者:4名
訪問範囲:病院より車で片道30分程度の範囲まで
- 看護部理念
「その人らしさを大切に、人生と希望のまるごとの応援」

対象と方法

○対象者

2018年9月6日に訪問看護の登録をしていた88名
男女比:男性 48% 女性 52%
年齢:平均 50.7才 (26才~80才)
疾患別:統合失調症75% 気分障害 20% その他 5%
住居:グループホーム等46% 単身生活35% 家族同居18%

* 精神障害を抱えている方の特徴について

ストレス脆弱性 ⇒ 混乱 病状の変化につながりやすい

○方法

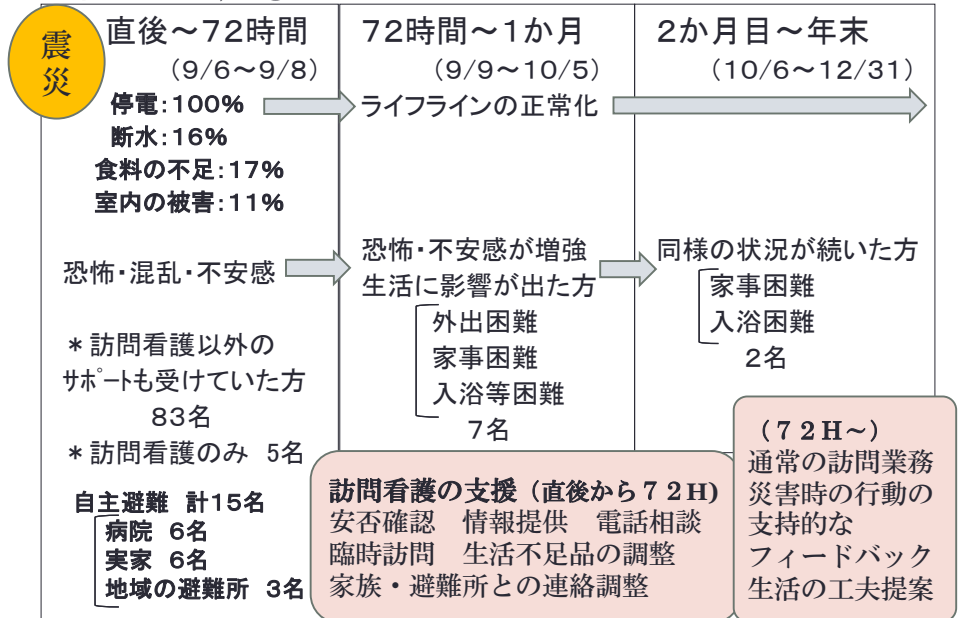
期間:災害当日(9月6日)~年末(2018年12月31日)

<3期に分ける>

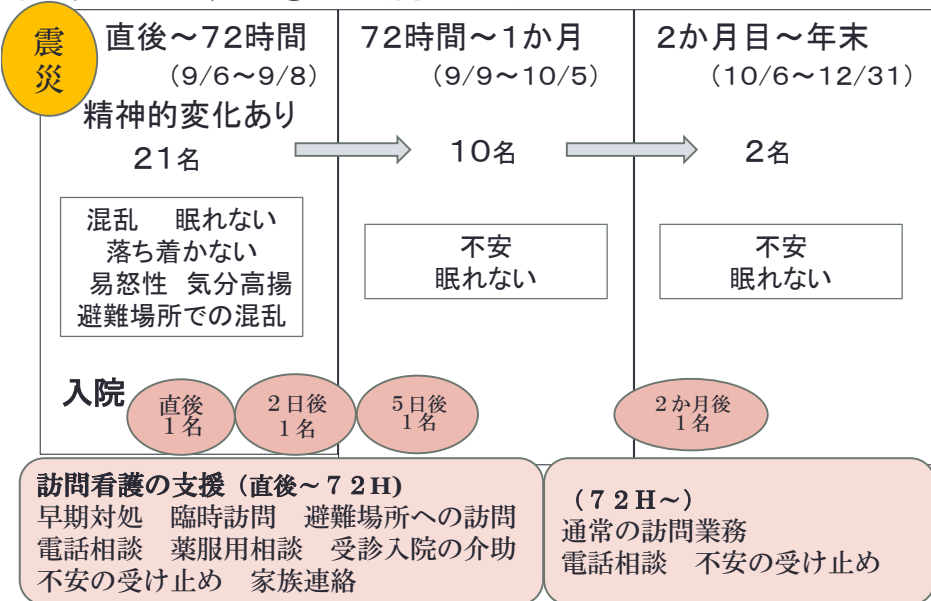
- ①災害直後~72時間
- ②72時間後~1か月
- ③2か月目~年末 (3か月+2週間)

それぞれの時期で、
「生活」と「病状」の変化と
それに伴う支援を
分析検討

結果 (N=88名) ① <生活の変化>



結果 (N=88名) ② <病状の変化>



考察

- ◆ 大半の方は家族や友人の支援が見られた。自分たちのコミュニティを持ちながら地域生活を継続していた方々であり、被災時に自助・共助の行動が見られた。
- ◆ 自主避難の行動ができた方がいた。
- ◆ 震災があったことで役割意識がはっきりし行動できた方がいた。
- ◆ 震災での出来事を通して、これらの行動を支持的にフィードバックすることで、本人のエンパワメントを強化できる可能性がある。
- ◆ 訪問での安否確認や確かな情報の提供が、安心感となり混乱を和らげていた可能性がある。
- ◆ 避難場所でのストレスが重なることで、専門的な支援が必要な場合がある。
- ◆ 災害がきっかけになり病状の悪化となって入院に至る場合がある。

まとめ

災害時の訪問看護師の役割

- ① 病状変化の早期発見・早期対処
- ② 災害で影響を受けた生活の支援・サポート
- ③ 支援対象者の周囲のサポート体制の把握と調整と協働(家族・友人・グループホーム病院スタッフ・避難所スタッフ等)
- ④ 困難を乗り越えたことがエンパワメントとなるよう支援

ご清聴ありがとうございました